

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地	
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		千葉 茂		〒144-8555 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111	
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 片柳学園		昭和25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111	
目 的		常に新鮮なる人材を必要とされる社会に対応し、専門の知識と技術を身につけ、技術者としての実力を蓄え、社会の中堅となる人材を養成することにある。環境・バイオ科では、企業との連携を密にすることにより、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与	
工業	工業専門課程	環境・バイオ科	2年(昼)	1770単位時間 (又は単位)	平成22年文部科学 大臣告示第153号	—	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		960単位時間 (又は64単位)	-単位時間 (又は単位)	-単位時間 (又は単位)	1080単位時間 (又は36単位)	-単位時間 (又は単位)	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		105人		3人	6人	9人	
学期制度		■前期 ：4月1日～9月30日 ■後期 ：10月1日～翌3月31日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 成績評価の方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 成績評価の基準 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定		
長期休み		■学年始め ： 4月1日 ■夏季 ： 7月21日～8月31日 ■冬季 ： 12月23日～翌年1月8日 ■春季 ： 3月18日～3月31日 ■学年末 ： 3月31日		卒業・進級条件	進級条件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等を全額納入していること 卒業条件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等を全額納入していること		

生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・メール等で連絡することを基本とし、状況に応じてだが、数日続いた時点で保護者に連絡をするなどの指導をしている。	課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動 (有)・無)
主な就職先	■主な就職先、業界 環境技研(株)、荏原環境プラント(株)、水 i n g (株) ■就職率 83.3% ■卒業者に占める就職者の割合 83.3% ■その他 (任意)	主な資格・検定	化粧品製造所責任技術者、環境社会検定、有機溶剤作業主任者、特定化学物質等作業主任者、毒物劇物取扱責任者
中途退学の現状	■中途退学者 10名 ■中退率 9.4% 平成 24 年 4 月 1 日在学者 106 名 (平成 24 年 4 月入学者を含む) 平成 25 年 3 月 31 日在学者 96 名 (平成 25 年 3 月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更、体調不良、病気療養 ■中退防止のための取組 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		
ホームページ	URL: http://www.neec.ac.jp/		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業が必要とする人材を育成するために、企業へのヒアリングを実施し、実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の開設や授業方法の改善や工夫を行うことにより、カリキュラムに反映させる。更に、授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業（講師）との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を等について検証することにより、実践かつ専門的な職業教育を目指す。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 26 年 8 月 27 日現在

名 前	所 属	任期
小林 りょう	一般社団法人日本下水道施設管理業協会 監事	平成 27 年 3 月 31 日
太田 望斗	株式会社環境施設コンサルタント 計画部課長代理	平成 27 年 3 月 31 日
千葉 茂	日本工学院専門学校 校長	平成 27 年 3 月 31 日
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成 27 年 3 月 31 日
山野 大星	日本工学院専門学校 テクノロジーカレッジ長	平成 27 年 3 月 31 日
川村 公二	日本工学院専門学校 テクノロジーカレッジ科長	平成 27 年 3 月 31 日
森宮 乾	日本工学院専門学校 テクノロジーカレッジ	平成 27 年 3 月 31 日
片山 圭子	日本工学院専門学校 テクノロジーカレッジ	平成 27 年 3 月 31 日
野崎 甚治	日本工学院専門学校 テクノロジーカレッジ	平成 27 年 3 月 31 日
大西 智之	日本工学院専門学校 教育・学生支援部係長	平成 27 年 3 月 31 日

(開催日時)

第1回 平成 26 年 8 月 27 日 10:00~10:30、12:30~12:45

第2回 平成 27 年 3 月 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等との打ち合わせにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
環境・化粧品応用実習 1	環境・化粧品に必要な化学実験を行います。	公営事業株式会社
環境・化粧品応用実習 2	環境・化粧品に必要な生物実験を行います。	公営事業株式会社
環境・化粧品応用実習 3	環境分析と化粧品分析の基礎実験を行います。	公営事業株式会社
環境・化粧品応用実習 4	環境調査と化粧品製造の基礎実験を行います。	公営事業株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、最新の技術力と技能、人間力を修得する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 9 月 26 日現在

名 前	所 属	任期
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役社長	平成27年3月31日
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 専務理事	平成27年3月31日
藤本 昌之	株式会社エンドレスエコー 代表取締役	平成27年3月31日
高橋 修	東京実業高等学校 進路指導副部長	平成27年3月31日
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成27年3月31日
前原 恵子	トレランスアクト株式会社 代表取締役	平成27年3月31日
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部 セクショ ンチーフ	平成27年3月31日
今泉 裕人	一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成27年3月31日

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.neec.ac.jp/news/131129/neec_report.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: http://www.neec.ac.jp/news/131129/neec_report.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 環境・バイオ科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			ビジネススキル	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、就職活動に必要な基礎を学びます。	1 前	30	2	○		
○			キャリアデザイン 1	仕事に必要な知識やマナーを勉強し、ビジネス能力検定 3 級の合格を目指します。	1 前	30	2	○		
○			パソコン実習	文章入力、表計算、グラフ作成などの実習を行います。	1 後	60	2			○
		○	スポーツ実習 1	冬季にスキーやスノーボードの集中授業を行います。	1 後	30	1			○
○			基礎数学	化粧品・環境の授業・実習に関わる数学の基礎を学びます。	1 前	30	2	○		
○			基礎化学	環境・食品・化粧品などに関わる化学の基礎を学びます。	1 前	30	2	○		
○			基礎生物	細胞の構造と機能、呼吸や光合成など生物のしくみの基礎を学びます。	1 前	30	2	○		
○			無機化学	無機化合物の構造と性質を学びます。	1 前	30	2	○		
○			有機化学	有機化合物の構造と性質を学びます。	1 後	30	2	○		
○			分析化学 1	物質の濃度や化学分析の基礎を学びます。	1 後	30	2	○		
○			生化学	糖、タンパク質、脂質、核酸などの構造と性質を学びます。	1 後	30	2	○		
○			微生物学	環境・化粧品に関わる微生物の種類や利用方法を学びます。	1 後	30	2	○		
○			環境・バイオ演習 1	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得および化学に関する演習を行います。	1 前	30	2	○		
○			環境・バイオ演習 2	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得および化学に関する演習を行います。	1 前	30	2	○		
○			環境・バイオ演習 3	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得および化学に関する演習を行います。	1 後	30	2	○		
○			環境・バイオ演習 4	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得および化学に関する演習を行います。	1 後	30	2	○		
○			環境・バイオ基礎実験 1	環境・食品・化粧品に必要な化学実験を行います。	1 前	120	4			○
○			環境・バイオ基礎実験 2	環境・食品・化粧品に必要な化学実験を行います。	1 前	120	4			○
○			環境・バイオ基礎実験 3	環境調査と化粧品製造の基礎実験を行います。	1 後	120	4			○

○			環境・バイオ基礎実験 4	環境分析と食品分析、化粧品分析の基礎実験を行います。	1 後	120	4			○
○			キャリアデザイン 2	応募書類の作成法や、筆記試験や面接などの採用試験の受験対策を行います。	2 前	30	2	○		
○			キャリアデザイン 3	応募書類の作成法や、筆記試験や面接などの採用試験の受験対策を行います。	2 後	30	2	○		
		○	スポーツ実習 2	冬季にスキーやスノーボードの集中授業を行います。	2 後	30	1			○
○			分析化学 2	物質の濃度や化学分析の基礎を学びます。	2 前	30	2	○		
○			機器分析化学	分析機器を使用した食品成分や化粧品成分、環境汚染物質などの分析方法を学びます。	2 前	30	2	○		
○			統計学 1	測定データの解析に必要な統計学の基礎を学びます。	2 後	30	2	○		
○			統計学 2	測定データの解析および管理について学びます。	2 後	30	2	○		
	○		環境概論	公害問題から地球環境問題について学びます。	2 前	30	2	○		
	○		水環境学	地球の水循環、水質汚濁の現状、汚濁の原因と影響について学びます。	2 前	30	2	○		
	○		水処理技術 1	化学的水処理技術および生物学的水処理技術を学びます。	2 後	30	2	○		
	○		水処理技術 2	給排水・衛生設備の管理方法を学びます。	2 後	30	2	○		
	○		食品化学	食品の製造や製造工程、保存方法などを学びます。	2 前	30	2	○		
	○		化粧品化学	化粧品の役割と成分、利用方法について学びます。	2 前	30	2	○		
	○		生理学	人間の皮膚の構造と性質、生理などについて学びます。	2 後	30	2	○		
	○		衛生学	商品の品質を保持する製造と管理の方法を学びます。	2 後	30	2	○		
○			資格演習 1	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得、および化学と分析技術などに関する演習を行います。	2 前	30	2	○		
○			資格演習 2	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得、および化学と分析技術などに関する演習を行います。	2 前	30	2	○		
○			資格演習 3	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得、および化学と分析技術などに関する演習を行います。	2 後	30	2	○		
○			資格演習 4	環境・食品・化粧品などに関わる資格取得、および化学と分析技術などに関する演習を行います。	2 後	30	2	○		
○			環境バイオ応用実験 1	水質分析、食品分析および化粧品製造実習を行います。	2 前	120	4			○
○			環境バイオ応用実験 2	水処理実験、水質分析、食品分析および化粧品製造実習を行います。	2 前	120	4			○
○			環境バイオ応用実験 3	水処理実験、水質分析、食品分析および化粧品分析を行います。	2 後	120	4			○
○			環境バイオ応用実験 4	都市環境の調査および化粧品製造実習を行います。	2 後	120	4			○
合計				43 科目	2040 時間(100 単位)					